様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１０日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2012
課題番号：22520457
研究課題名（和文）平安時代の真言宗系訓点資料についての研究

研究課題名（英文）Study on Kunten Materials in the Shingon Sect Written in the Heian Period

研究代表者
月本　雅幸（TSUKIMOTO MASAYUKI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：６０１４３１３７

研究成果の概要（和文）：平安時代に真言宗の学僧によって訓点が記入された資料を４つに分類するとＡ大日経・大日経疏類、Ｂ儀軌（法要の手順書）類、Ｃ空海撰述書類（空海774～835の著作)、Ｄその他となるが、これらの各グループの資料を日本語学的な見地から検討すると、ＡとＣに重要なものが多く含まれていることが明らかになった。このことから、今後の真言宗系の訓点の研究は、この２つのグループを中心とすることが望ましいと考えられる。

研究成果の概要（英文）：Kunten materials written by Buddhist monks of the Shingon Sect in the Heian Period are divided into four groups, that is, A) Dainichi-kyo(Mahavairocana Sutra) and its commentaries, B)Giki(Manuals of rituals, C)Books written by Kukai (774-835) and D)Others. According to our study, most important materials were found among group A) and C). We propose, therefore, that studies should be focused on these two groups of Kunten materials from now on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２０１１年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１２年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語学
キーワード：日本語史・漢文訓読・訓点・訓点資料

１．研究開始当初の背景

(1)訓点資料とその言語の研究は明治末年以来発展を続けて来たが、近年は研究者人口も少なく、特に若手研究者が皆無に近いと言った危機的な状況にある。

(2)このような自体を招いた背景には、若手研究者や隣接領域の研究者にとって、訓点の世界、あるいは訓点資料の世界の全体像が見えないという問題があるものと研究代表者（月本）は考えた。明治以来の数多くの研究も、個々の資料の解読・検討を行うものであって、平安時代の訓点資料の全体を見通したり、仏典の訓点資料全体を概観しようとしたものは皆無に等しかったからである。

(3)ただし、一挙に研究代表者が訓点の

世界、あるいは平安時代の訓点資料の全体像を描くことは困難である。そこで、月本がこれまで比較的大量かつ詳細に見ることができた真言宗系の訓点資料について、その全体像を把握する試みを実行しようとしたものである。

２．研究の目的
本研究は日本語学の立場から、平安時代に訓点の記入された仏典関係資料のうち、真言宗系の訓点資料について、それを一つの大きな資料群としてとらえ、その訓点の言語の特性を解明することを目的とする。その際、全体をより小さないくつかのグループに分け、それぞれの言語の特性を分析し、その上でその結果を総合することにより、真言宗系訓点資料の全体像を明らかにする。そしてこのような方法論を通じて平安時代の訓点資料の全体像に迫る可能性を探り、さらにはこれによって、平安時代の訓点資料の研究を格段に発展させ、日本語史資料として訓点資料をより良く活用する方法を見出そうとするものである。

３．研究の方法
(1)前述の「研究開始当初の背景」や「研究目的」に述べた考えに基づき、真言宗系の平安時代の訓点資料を原本や画像によって調査研究するが、その際、研究対象の全体を４つのグループに分けて作業を行う。

(2)それらはＡ大日経・大日経疏類、Ｂ儀軌類、Ｃ空海撰述書類、Ｄその他の４つである。この設定は、真言宗で重視されたり、実際上よく用いられたものに重点を置いて行ったものである。

(3)個々の資料を詳細に検討することにより、上記の４つのグループ毎に共通する性格を見出す。

(4)さらにそれを総合することによって平安時代の真言宗系訓点資料の特質を抽出し、今後のこれらの資料の研究の焦点をどこに置くべきかを検討する。

２．研究成果
(1)「研究の方法」で述べた真言宗系訓点資料の４つのグループについて、それぞれ調査研究を行い、(2)～(6)の結果を得た。

(2)Ａグループ（大日経、大日経疏）については、今回は伝存する資料数が多く、かつ訓点が詳細な大日経疏の訓点資料を中心に調査を行い、次のような知見を得ることができた。
①真言宗では大日経疏の訓点資料がかなり多く伝存しているが、２０巻全体を伝えるものは極めて少ない。

②現在伝わる大日経疏の古写本には多くの場合、訓点が記入されていて、これは本書が真言宗において、よく研究されたことを示している。

③大日経疏の訓点に使用された言語には、古い要素と新しい要素が混在しており、全般に平安時代前半期の言語の要素の残っていることの少ない真言宗系の訓点資料において、例外的なあり方を示している。

④これは平安時代の初めから、真言宗において大日経疏の研究が盛んに行われていたことを示すものであり、古い訓法の上に随時新しい訓法が書き加えられることにより、新古の要素の混在という現象が起きたと考えられる。

(3)同様にＢグループ（儀軌類）の訓点資料については、次のような知見を得ることができた。
①真言宗では多数の儀軌類の古写本が伝存し、多くの場合、訓点が記入されていて、このことは儀軌類が真言宗においてよく読まれ、研究されていたことを示すものと認められる。

②しかし、それは学問的な研究の対象というよりは、修法の際の手順を確実に理解するためのものであって、言わば実用的な意味が強かったものと認められる。

③そこで、儀軌類の訓点に使用される言語も、古い日本語（平安時代で言えば平安時代前半期の日本語）を保存したものというよりは、その時々の理解のために使用された当代的なものであると見られる。

④ただし、儀軌類には類型的な表現（命令表現など）が多く、その型自体はよく保存されていると見ることができる。

(4)同様にＣグループ（空海撰述書類）については次のような知見を得ることができた。
①空海撰述書類については、極めて多数の平安時代に書写された訓点資料が現存し、中には天台宗寺院に伝わったものもある。これは空海の著作が、広く他宗派を含む仏教界において読まれていたことを示している。

②それらの多くには訓点が記入されていて、平安時代において空海撰述書類がよく読まれ、研究されていたことを示している。

③空海撰述書類の訓点資料は現在の時点においてもそれらの書物の理解・解読に有用であると共にその訓点が平安時代の日本語の資料として重要なものが少なくない。

④ただし、空海撰述書類の訓点の源流は空海在世当時（８～９世紀）に遡るものではなく、それがあったとしてもごく少数にとどまり、大部分の訓点は１１～１２世紀に新たに記入されたものを淵源としており、言語的には平安時代後半期のものと見られる。

(5)Ｄグループ（その他）の訓点資料については次のような次のような知見を得た。
①「その他」については種々のものが混在していて、１つのグループとして扱うには困難がある。それらには金剛頂経系統の経典（金剛頂大教王経、金剛頂瑜伽中略出念誦経）、次第類、論、論疏などが含まれていて、その性格は一様ではないと見られるからである。

②これらの書の全体的な書物としての性格、また訓点資料としての言語的な性格については、なお検討の余地を残している。

(6)以上の(2)～(5)を総合して、真言宗系の平安時代の訓点資料には、大日経疏を除くと平安時代前半の日本語の要素は少なく、この点を重視すれば、大日経疏の訓点資料は重要なものであることが明らかである。また、空海撰述書類には詳細な訓点が記入されている資料が多い。このことから、真言宗系の訓点資料の日本語学的な研究においては今後、大日経疏と空海撰述書の調査研究を中心として推進していくべきであることが明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）
①「高山寺蔵本大毘盧遮那成佛経疏巻第十五康和点訳文稿（九)」、月本雅幸、『平成二十四年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、査読なし、88-91、2013
②「高山寺蔵本大毘盧遮那成佛経疏巻第十五康和点訳文稿（八)」、月本雅幸、『平成二十三年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、査読なし、81-84、2012
③「石山寺本阿托薄倶儀軌の古訓点について」、月本雅幸、『訓点語と訓点資料』127、査読あり、132-139、2011
④The Development of Japanese Kana、Tsukimoto,Masauyuki、*Scripta* Vol.3、査読あり、45-59、2011
⑤「高山寺蔵本大毘盧遮那成佛経疏巻第十五康和点訳文稿（七)」、月本雅幸、『平成二十二年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、査読なし、73-76、2011
⑥ Toward an International Vocabulary for Research on Vanacular Readings of Chinese Texts、John Whitman,Tsukimoto Masayuki et al.（７人中５番目)、*Scripta* Vol.2、査読あり、61-83、2010
⑦「高山寺蔵本大毘盧遮那成佛経疏巻第十五康和点訳文稿（六)」、月本雅幸、『平成二十一年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、査読なし、130-133、2010
⑧「訓点資料の基本的問題について」、月本雅幸、『古典語研究の焦点』、査読なし、589-605、2010

〔学会発表〕（計１件）
The Development of Japanese Kana、Tsukimoto Masayuki、（韓国）訓民正音学会第２回国際大会、ソウル国立大学、大韓民国，2010年10月9日

〔図書〕（計１件）
『古典語研究の焦点』、武蔵野書院、月本雅幸、藤井俊博、肥爪周二共編著、997p.、2010

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
月本　雅幸（TSUKIMOTO MASAYUKI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60143137

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：